

第2分科会 「地域コミュニティの再構築」

三鉄で巡る！地域復興にむけたまなび <岩手県>

パネラー 三陸鉄道 代表取締役社長 望月 正彦 氏

岩手県出身。S49岩手県職員。以降久慈市助役、盛岡地方振興局長等を経てH22退職。同年6月三陸鉄道(株)社長。

【取組概要】H23年3月東日本大震災で被災し、大きな被害を受けた三陸鉄道を3月中に路線の一部36.2kmで運行再開。H24年4月、H25年4月に部分運行を実現、H26年4月には全線で運行再開予定。



女性のコミュニティビジネスによる地域活性化 <青森県>



パネラー 企業組合でる・そーれ 代表理事 澁谷 尚子 氏

青森県出身・在住。弘前大学教育学部卒。平成21年4月コミュニティカフェでる・そーれ開店、同代表。平成22年8月企業組合でる・そーれ代表理事。

【取組概要】「でる・そーれ」は津軽鉄道社屋1Fの地域交流施設「サン・じゃらっと」内に開店。店内にはオリジナルの加工食品・地元の工芸品などが並び、食事や喫茶、休憩、津軽鉄道サポーターズクラブの活動拠点も兼ねた多目的スペースになっている。青森シヤモロック・長芋・舞茸など県内の食材を活用した津鉄汁、津軽鉄道ストーブ列車でだるまストーブに使われている「石炭」をモチーフにしたストーブ列車石炭クッキーを製造販売。石炭クッキーは売り上げの一部をストーブ列車維持のために寄付される仕組みとなっている。五所川原特産のリンゴジュースなどお土産も扱い、生産者と消費者がつながる拠点となっている。

人と人とのつながりの再生による地域の助け合いネットワークづくり <宮城県>

パネラー (一社)みやざき公共・協働研究会 ディレクター 出水 和子 氏

宮崎市在住。81年の国際障害者年をきっかけに重症児者・高齢者への支援などに携わる。阪神淡路大震災をきっかけに防災の視点で活動、県民がつくる宮崎防災ネットワーク事務局長。宮崎県教委防災教育推進委員他。

【取組概要】単行本「みやざきの自然災害」企画編集出版、宮崎県県民・企業の防災力強化支援事業、宮崎県教委実践的防災教育総合支援事業における学校アドバイザー活用事業、宮崎県教委防災教育教材の作成業務などに従事。

パネラー (一社)みやざき公共・協働研究会 職員 佐藤 己実 氏

宮崎県宮崎市在住。2011年から現職。関心事は、女性の人権の確立とメディア・リテラシー。

【取組概要】内閣府公募事業「新しい公共の場づくりのためのモデル事業「地域での防災・まちづくり教育を基本にした地域コミュニティの再生事業」」「宮崎県 県民・企業の防災力強化支援事業」など。



柏崎市を元気な町へ～地域コミュニティづくりや商店街の復興～<新潟県>



パネラー (特非)柏崎まちづくりネットあいさ 事務局長 水戸部 智 氏

09年新潟工科大学工学部卒業。在学時から被災商店街にて復興支援のプロジェクトに参加するとともに、復興支援をするNPO「中越沖復興支援ネットワーク」に所属。卒業後、同団体の事務局長に就任。13年1月に任意団体からの活動を継承し、まちづくりの中間支援組織として活動する特定非営利活動法人柏崎まちづくりネットあいさを設立し事務局長。現在に至る。

【取組概要】07年7月16日に発生した新潟県中越沖地震により被災した柏崎地域を中心に、避難所のサロン・コミュニティづくりの支援や復興活動への資金面・マンパワーの支援を実施。地震から4年後には、市と協働で市民活動団体等を対象とした補助金事業を運営する。また、新潟工科大学と新潟産業大学の2大学の学生等を中心に地域とのコーディネートを活発に行っている。

コーディネーター 全国コミュニティ・スクール連絡協議会 会長 貝ノ瀬 滋 氏

都内公立学校教諭、東京都教育委員会指導主事、教育委員会参事等を経て、1998年4月から三鷹市立第四小学校長。2004年10月より三鷹市教育委員会教育長。2012年10月より三鷹市教育委員会委員長。校長時代から学校教育ボランティア制度を立ち上げ、学校支援組織としてNPO法人「夢育支援ネットワーク」を設立し、開かれた学校づくりを推進する。又、教育長としてコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を市内全校に拡大し、全国から注目される。



